

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 26 年 10 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 10 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,224 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）3.1%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,916 円（伸び率 0.2%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,544 億円（伸び率 3.1%）、薬剤料が 4,669 億円（伸び率 3.1%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 636 億円（伸び率 23.2%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん1枚当たり 薬剤料	処方せん1枚当たり 薬剤料種類数	1種類当たり 投薬日数	1種類1日当たり 薬剤料
実数	5,550 円	2.94 種類	22.1 日	85 円
伸び率（%）	▲0.6	▲0.6	+2.1	▲2.1

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,874 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）86 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 943 億円（伸び幅▲46 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 34 億円（総額 656 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,874 億円 （+86 億円）	21 循環器官用薬 （943 億円）	11 中枢神経系用薬 （656 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（519 億円）
0 歳以上 5 歳未満	45.4 億円 （▲0.30 億円）	44 アレルギー用薬 （19.4 億円）	61 抗生物質製剤 （11.8 億円）	22 呼吸器官用薬 （7.0 億円）
5 歳以上 15 歳未満	91.9 億円 （+0.19 億円）	44 アレルギー用薬 （41.4 億円）	61 抗生物質製剤 （15.8 億円）	11 中枢神経系用薬 （13.1 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,352 億円 （+3 億円）	21 循環器官用薬 （289 億円）	11 中枢神経系用薬 （288 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（191 億円）
65 歳以上 75 歳未満	979 億円 （+47 億円）	21 循環器官用薬 （290 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（154 億円）	11 中枢神経系用薬 （116 億円）
75 歳以上	1,406 億円 （+36 億円）	21 循環器官用薬 （362 億円）	11 中枢神経系用薬 （238 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（168 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,916 円（伸び率 0.2%）で、最も高かったのは石川県（11,089 円（伸び率▲0.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,650 円（伸び率 1.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは富山県（伸び率 2.0%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲1.5%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 636 億円（伸び率：23.2%、伸び幅 120 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	56.3%	+8.6%
薬剤料ベース	13.6%	+2.2%
後発品調剤率	61.3%	+6.2%
（参考）数量ベース（旧指標）	37.4%	+6.4%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+23.2%	+43.7% （0 歳以上 5 歳未満）	+11.6% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.6%	14.7% （65 歳以上 70 歳未満）	9.1% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	565 億円 （+102 億円）	21 循環器官用薬 （160 億円）	23 消化器官用薬 （105 億円）	11 中枢神経系用薬 （63 億円）
0 歳以上 5 歳未満	5.72 億円 （+1.78 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.37 億円）	61 抗生物質製剤 （1.48 億円）	44 アレルギー用薬 （1.12 億円）
5 歳以上 15 歳未満	10.1 億円 （+2.60 億円）	44 アレルギー用薬 （4.01 億円）	61 抗生物質製剤 （2.62 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.03 億円）
15 歳以上 65 歳未満	189 億円 （+28 億円）	21 循環器官用薬 （49 億円）	23 消化器官用薬 （31 億円）	11 中枢神経系用薬 （25 億円）
65 歳以上 75 歳未満	148 億円 （+29 億円）	21 循環器官用薬 （53 億円）	23 消化器官用薬 （27 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（17 億円）
75 歳以上	212 億円 （+41 億円）	21 循環器官用薬 （58 億円）	23 消化器官用薬 （46 億円）	11 中枢神経系用薬 （29 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	911 円	1,257 円（岩手県）	746 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.8%	+32.6%（秋田県）	+11.8%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	56.3%	70.0%（沖縄県）	46.8%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.6%	17.8%（鹿児島県）	10.8%（徳島県）
後発医薬品調剤率	61.3%	72.6%（沖縄県）	53.8%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	37.4%	48.8%（沖縄県）	31.5%（山梨県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成26年10月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。